わが国の物流の要衝 京浜港

国際コンテナ戦略港湾

2010年8月、国土交通省による「国際コンテナ戦略港湾」の公募で、京浜港（東京港、川崎港、横浜港）は阪神港とともに選定を受けた。

「国際コンテナ戦略港湾」として、京浜港に寄港する国際基幹航路を維持・拡大するためには、国内の貨物を確実に集荷すること、利用者本位の使いやすい港であることが必須条件となる。京浜港ではコンテナ貨物集荷力の強化、ターミナルコストの低減、京浜港の一体化による利用者サービスの向上、港湾機能の充実・強化など、ハード・ソフト両面からの取り組みを積極的に進めている。

11年9月には地方自治法に基づき設置した協議会である「京浜港連絡協議会」において、「京浜港の総合的な計画」を策定した。同計画は複数の港湾管理者が共同で長期計画を策定するという全国初の取り組みであり、京浜港の目指すべき将来像およびその実現に向けた具体的な方策を示し、京浜三港の連携体制を名実ともに一層強固なものとしている。また、同計画は三港が策定する港湾計画の基本となるものであり、ここに示された方針に基づき、現在、三港が調整しながら、各港の港湾計画の改訂に向けた検討を進めている。

11年12月からはコンテナ貨物集荷の具体策として、京浜港コンテナ貨物集荷補助制度を開始し、今年度も継続している。補助対象貨物は釜山港などの利用から京浜港へ利用転換した輸出入コンテナなどであり、1FEU（1FEUは40フィートコンテナ1個分）当たり5000円を標準とした補助を実施している。今後は効果検証を行いつつ、一層の施策展開を図っていく。

京浜港は「国際コンテナ戦略港湾」としての取り組みを着実に実施し、日本経済を支える物流拠点、そしてアジアの拠点港湾としての役割を十分に果たしていく。

東京港

都市型産業港湾として発展

東京港は1941年に国際貿易港として開港し、大都市産業や住民生活に必要な物資を担う都市型産業港湾として、これまで発展を遂げてきた。

2012年の外貿コンテナ取扱個数は、過去最高の約424万TEU（速報値）を記録するなど、首都圏を支える一大物流拠点として着実に成長を続けている。

一方、アジア諸港の躍進が続く中、東京港においても港湾を取り巻く状況の変化に適切に対応し、国際競争力の強化に向けた取り組みを推進していく必要がある。

このため、ソフト面ではコンテナ貨物集荷補助制度を13年度も実施し、貨物集荷活動の強化を図っている。また、11年12月に開始した早朝ゲートオープンを13年度も継続的に実施する他、12年12月には中央防波堤外側地区にコンテナ車両待機場を整備し、埠頭周辺の混雑緩和による利用者サービスの向上に努めている。さらに、災害時対応として13年3月に東京港の港湾BCP（事業継続計画）を策定し、発災時の各港湾関係者の協力体制を整理・明確化した。

ハード面では船舶の大型化や増加する貨物量に対応するため、中央防波堤外側コンテナターミナルの整備や大井埠頭と城南島間の埋め立て工事を進める。これにより既存コンテナ埠頭の再編を図り、より一層、東京港の港湾物流機能を充実・強化していく。

東京都港湾局提供

川崎港

総合物流拠点地区本格稼働へ

工業港として首都圏の経済を支えてきた川崎港は、現在、臨海部への企業集積に加え、東扇島地区にはかわさきファズ物流センターや国内最大の冷凍冷蔵倉庫群など、港湾物流機能が充実している。12年には年間入港船舶総トン数が約1億44万総トン、貨物量は約8329万トンと首都圏経済を支える総合港湾として確実な発展を続けている。

コンテナターミナル（CT）背後地にある総合物流拠点地区には、CTなどを一体的に活用する高機能物流拠点施設を誘致し、第1期地区約13ヘクタールの4社の企業は既に事業を実施した。今年度には第2期地区約100ヘクタールに進出した5社全ての企業が事業を開始することとなる。また、CTについては昨年度アジアを中心とした定期航路が就航した。5月に中国・青島航路、10月の上海港、今年3月の深セン港と合わせて三つの航路が開設され、コンテナ貨物量も年間で3割程度も増加するに至った。

また、首都高速湾岸線・横羽線、東京湾アクアラインなどにより、東京方面（羽田空港）・横浜方面へのアクセスが向上している。東扇島と水江町を橋梁で結ぶ臨港道路も供用を予定しており利便性はさらに高まる。

今後も、京浜3港が連携した中で、より使いやすい港として、外航・内航定期航路の拡充や貨物集荷制度の施策展開など利用者ニーズに的確に対応し、一層の利便性の向上に努めていく。

横浜港

超大型船入港に向けCT整備

横浜港は1859年に開港して以来、日本を代表する国際貿易港として発展してきた。2010年には国から国際コンテナ戦略港湾の指定を受けている。京浜工業地帯には工業港があり、また、都心臨海部に位置するみなとみらい21地区は、APEC首脳会議やアフリカ開発会議などの国際会議が行われるMICE（マイス）拠点となっており、横浜港は多様な表情を放っている。

昨今、急速にコンテナ船の大型化が進み、これに対応する大水深コンテナターミナル（CT）の整備が急務となっている。横浜港は国際コンテナ戦略港湾として、水深16メートルのCT（既存3バース、整備中2バース）に加え、水深20メートルのCTの整備を14年度の供用開始に向け進めている。さらに、今年度は別の新たな大水深CTの整備にも着手していく。

この他にも、国際コンテナ戦略港湾としての国際競争力の強化や防災、減災対策などの新たな課題へ対応するため、今年度中に横浜港港湾計画を改訂する。

横浜港は「国際競争力のある港」「市民が集い、憩う港」「安全・安心で環境にやさしい港」を目指し、特例港湾運営会社となった横浜港埠頭株式会社と連携して、利用者サービスの向上のためのさまざまな取り組みを進めていく。

「速い」「確実」「安心」

Port of Tokyo

つながる世界、ひろがるネットワーク

東京港は、国際貿易港として発展し、東京・首都圏の生活と産業を支えてきました。
現代の物流ニーズに応えた港湾施設・道路の整備を着実に進め、
港の使いやすさをさらに向上させています。
国際海上貨物なら東京港。東京港は、国際物流ネットワークへの「速い」「確実」「安心」なルートを約束します。

東京都港湾局
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1
TEL 03-5320-5546
ホームページ・アドレス
http://www.kouwan.metro.tokyo.jp/

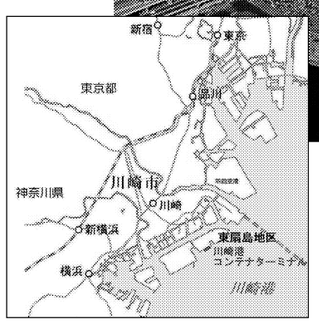
東京港埠頭株式会社
〒135-0064 東京都江東区青海 二丁目4番24号
青海フロンティアビル 10階
TEL 03-3599-7303
ホームページ・アドレス
http://www.tptc.co.jp/

一般社団法人 東京都港湾振興協会
〒135-0064 東京都江東区青海 二丁目4番24号
青海フロンティアビル 20階
TEL 03-5500-2584
ホームページ・アドレス
http://www.tokyoport.or.jp/

新たな物流拠点への挑戦
川崎港
Port of KAWASAKI

◇東京や横浜、北関東方面へのアクセスに優れ、首都圏を見据える好立地
◇物流施設が多数立地し、特に冷凍・冷蔵倉庫の保管能力は国内随一
◇2013年度にガントリークレーン3号機、シャーシプールを整備予定

川崎港は、コンテナ貨物補助制度を実施し、荷主等をサポートしています。



川崎市港湾局
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話：044-200-3053/3071　FAX：044-200-3981
E-mail：58yuuti@city.kawasaki.jp
URL:http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-6-0-0-0-0-0-0-0-0.html

横浜市港湾局
問合せ先 045-671-7260（誘致推進課）
http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/

横浜港埠頭株式会社
問合せ先 045-671-7291（代表）
http://www.yokohamaport.co.jp/

(一社)横浜港振興協会
問合せ先 045-671-7241
http://www.yokohamaport.org/

横浜港ポータルサイト
http://www.yokohamaport.org/portal/